

## 1. 1. 6 ミズダコ

担当者 調査研究部 城 幹昌

### (1) 目的

網走支庁管内において、ミズダコは沿岸漁業者にとって重要な漁業対象種である。しかし、オホーツク海におけるタコ類の調査研究は、ほとんど取り組まれていないのが現状である。このため、ミズダコについて移動や成長といった生態的知見を蓄積するとともに、漁獲量のモニタリング等を行うこととした。また、ヤナギダコについても、漁獲量のモニタリングを行った。

### (2) 経過の概要

#### ア 漁獲統計調査

ミズダコ・ヤナギダコ共に、年別・地区別の漁獲量は北海道水産現勢を用いて集計した(2007年は暫定値)。水産現勢では、紋別のヤナギダコの漁獲量がミズダコの漁獲量に含まれて集計されている。昨年まではマリネットを用いてこれらの分離が可能であったが、2007年からはマリネットの縮小に伴い不可能になった。なお、紋別における2003-2006年の沖合底びき網によって漁獲されたタコ類の漁獲量のうち、ヤナギダコの占める割合は2.5-5.9%であった。

#### イ 標識放流調査

1988年から網走支庁管内たこ漁業連絡協議会が中心となって、3kg未満の小型ミズダコの標識放流を行っている。2007年に得られた放流・再捕情報を整理するとともに、成長・移動などの情報の収集を行った。なお、この小型ミズダコは通常の漁業によって採捕されたものである。

### (3) 得られた結果

#### ア 漁獲量の推移

1985年以降、網走支庁管内のミズダコ漁獲量は、全道のミズダコ漁獲量の変動とほぼ一致した増減を繰り返している(図1)。網走支庁管内のミズダコ漁獲量は、1985年から1991年までは約500-900トン間で推移していた(表1, 図1)。その後、1992年から1999年にかけては連続して1,000トン以上の漁獲がみられた。2000年以降では、過去最高の1,623トンを記録した2003年および2006・2007年に1,000トンを上回る年もあったが、

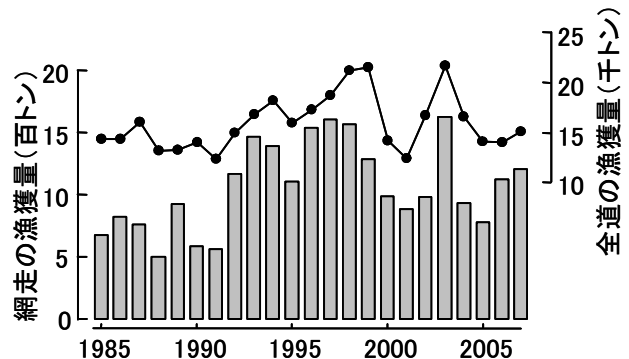


図1 網走支庁管内(棒グラフ)と全道(折れ線)のミズダコ漁獲量の推移

表1 網走支庁管内の漁協別ミズダコ漁獲量

年										(トン)
	雄武	沙留	紋別	湧別	佐呂間	常呂	網走	斜里	ウトロ	合計
1985	92	35	81	13	1	60	168	109	112	670
1986	190	49	102	23	0	139	183	67	69	822
1987	169	33	108	25	1	94	141	78	112	759
1988	81	20	57	15	0	71	122	60	72	498
1989	236	40	199	26	0	158	170	54	40	923
1990	139	20	55	24	0	81	60	113	94	587
1991	195	52	79	22	0	40	76	63	33	559
1992	322	67	130	28	0	162	262	92	104	1,167
1993	341	88	148	18	0	250	355	147	118	1,466
1994	344	83	173	36	0	210	319	114	110	1,389
1995	290	69	125	22	0	136	259	102	99	1,102
1996	373	119	221	49	3	229	377	79	86	1,534
1997	354	117	210	82	4	229	400	105	102	1,603
1998	335	111	190	72	1	216	347	188	107	1,567
1999	353	112	168	57	1	153	260	117	61	1,283
2000	247	90	127	49	2	121	209	85	59	988
2001	220	57	124	44	2	113	193	77	52	881
2002	285	93	127	42	5	92	154	93	90	981
2003	436	108	200	76	2	234	352	156	58	1,623
2004	231	57	129	37	1	73	188	106	114	938
2005	244	64	115	30	0	80	153	55	34	776
2006	302	63	132	29	0	106	295	144	53	1,125
2007	336	86	172*	44		117	249	123	76	1,203

資料:北海道水産現勢(2007年は暫定値)

\*: ヤナギダコの漁獲量が含まれている。

それ以外の年では約700-1,000トンの間で推移した。

2007年では、地区別にみると常呂より西の全ての地区およびウトロでは漁獲量は前年を上回っていた。一方、網走や斜里では前年に比べては減少していたが、両地区とも比較的高い漁獲量を維持していた(表1)。

網走管内においては、北海道水産現勢上「たこ

漁業」に含まれる漁業のうち「たこ函」による漁獲が最も多く、次いで「たこいさりびき」による漁獲が多い。この2つの漁業で、たこ漁業によるミズダコ漁獲量の8-9割を漁獲している(平成17, 18年度事業報告書)。

網走支庁管内におけるヤナギダコの漁獲量はミズダコに比べて少ない(表2)。1990年には354トンと過去最高の漁獲量を記録し、その後1998年まで1996年を除き100トンを上回る漁獲が続いたが、その後は減少し2001年では29トンまで低下した。その後、漁獲量はやや増加し、2007年の漁獲量は増加し、72トンであった。なお、これには紋別の沖合底びき網による漁獲量が含まれていない。

ヤナギダコは、網走支庁管内では網走の沖合底びき網で多く漁獲され(68トン, 94%), 次いで毛がにかご(1.7トン, 2.4%), 底建網(1.3トン, 1.8%)であった。

表2 網走支庁管内の漁協別ヤナギダコ漁獲量

年	(トン)							合計
	雄武	沙留	紋別	湧別	佐呂間	常呂	網走	
1985	3	1	0				0	4
1986	51	20	28				2	100
1987	31	13	13		0	1		58
1988	15	2	16		0	4		37
1989	7	3	28		1	52		91
1990	10	5	86		4	250	0	354
1991	4	4	34		6	139		187
1992	3	4	23		0	167		197
1993	3	3	18	2	2	188		215
1994	1	1	15		0	2	156	175
1995	0	0	16	0	0	1	163	181
1996	0	0	0	0	2	92		95
1997	1	1	0		3	142		147
1998	1	0	0		2	109		112
1999	1	0			3	45		49
2000	0	0	5		1	40		47
2001	3	1			2	23	0	29
2002	13	6			7	53		79
2003	1	1	13		2	46	10	73
2004	3	2	6		2	69	1	82
2005	2	0	6		2	77	2	89
2006	1	0	1		3	39	1	45
2007	2	0	ND <sup>*1</sup>		1	68	0	72 <sup>*2</sup>

資料: 北海道水産現勢(2007年は暫定値)

\*1: データ無し(ミズダコ漁獲量に含まれているため集計不可)

\*2: 紋別のヤナギダコ漁獲量が含まれていない

## イ 標識放流調査

網走支庁管内におけるミズダコの標識放流は、漁獲されても放流することとされている体重3Kg未満の個体の一部に、漁業者自らがプラスチック製のディスク型(黄色)の標識を付けて放流しているものである。

表3 これまでの標識放流・再捕の実績

放流機関	放流年	放流個体数	再捕年	再捕個体数	再捕率
雄武漁協	1994	63	1994	3	4.8
	1995	109	1995	4	3.7
	1996	101	1996	7	6.9
			1997	3	3.0
			1998	1	1.0
			1998	11	12.5
	1998	88	1999	1	1.1
			1999	100	-
	2003	24	-	4	16.7
	2004	33	-	0	0
2007	71	-	0	0	
沙留漁協	1996	46	1996	8	17.4
			1997	1	2.2
	2004	10	2004	1	10.0
	2006	31	2007	1	3.2
	2007	51	2007	3	5.8
			2008	1	2.0
紋別漁協	1988	51	1988	3	5.9
			1989	1	2.0
	1989	13	1989	2	15.4
	1990	24	-	0	0
	1991	22	1991	1	4.5
			1992	2	9.1
	1993	57	1993	9	15.8
	1996	48	1996	6	12.5
	2002	38	2002	3	7.9
			2003	1	2.6
	2003	32	2003	1	3.1
	2004	12	-	0	0
	2005	28	2006	2	7.1
	2006	16	-	0	0
	2007	9	-	0	0
湧別漁協	2004	32	2004	2	6.3
	2005	25	2005	2	8.0
	2007	16	2007	1	6.3
常呂漁協	1989	85	1989	4	4.7
	1993	101	1993	19	18.8
	2001	100	2001	7	7.0
	2002	99	2002	3	3.0
	2003	120	2003	15	12.5
	2004	76	2004	4	5.3
	2005	109	2005	11	10.1
	2006	191	2006	29	15.2
	2007	293	2007	4	1.4
			2007	4	1.4
網走漁協	1988	34	1988	5	14.7
	1989	42	1989	7	16.7
	1990	4	-	0	0
	1993	51	1993	10	19.6
			1994	1	2.0
	1996	128	-	9	7.0
	1997	6	-	0	0
	1998	97	1999	1	1.0
	1999	79	-	0	0
	2003	142	2003	10	7.0
			2004	2	1.4
	2004	104	2004	2	1.9
			2005	2	1.9
	2005	95	-	0	0
	2006	121	2006	3	2.5
2007	140	2007	1	0.7	
斜里第一漁協	1991	8	1991	2	25.0
	1993	4	1994	1	25.0
	1996	19	1996	1	5.3
			1997	1	5.3
	1998	8	-	0	0
	2002	42	2002	2	4.8
	2005	10	-	0	0
	2007	15	-	0	0
ウトロ漁協	1990	22	-	0	0
	1996	70	-	0	0
	1998	20	-	0	0.0

2007年では、雄武、沙留、紋別、湧別、常呂、網走、斜里の7地区においてミズダコの標識放流

が行われ、合計 595 個体のミズダコが放流された (表 3)。放流された時期は、雄武では 12 月、沙留では 5-10 月、紋別では 6 月に、湧別では 8-10 月、常呂では 3 月、網走では 4-7、10-12 月であった。

2007 年に再捕されたミズダコの放流・再捕時の状況を表 4 に示す。2007 年には 10 個体の標識ミ

ズダコが再捕され、そのうち 1 個体は 2006 年に放流された個体であった。すべての個体が、放流された地区や両隣の地区で再捕されていた。また、3 月に放流され、7、8 月に再捕されたミズダコ (表中 1-3、5) の日間成長量は、1 個体については 7.6 g/day であったが、それ以外の 4 個体では 30.3-39.5 g/day と成長が速かった。

表 4 2007 年のミズダコ標識放流・再捕の状況

番号	再捕年月日	再捕漁協	体重 (kg)	水深 (m)	放流年月日	放流漁協	体重 (kg)	水深 (m)	経過日数	増体重 (kg)
1	2007. 7. 18	常呂	6.0	33	2007. 3. 21	常呂	2.4	52	119	3.6
2	2007. 7. 18	常呂	3.5	62	2007. 3. 21	常呂	2.6	30	119	0.9
3	2007. 7. 23	常呂	6.3	33	2007. 3. 21	常呂	2.4	30	124	4.0
4	2007. 8. 21	沙留	5.0	50	2007. 6. 6	沙留	2.0	51	76	3.0
5	2007. 8. 27	常呂	6.9	50	2007. 3. 21	常呂	1.7	54	159	5.2
6	2007. 9. 17	網走	3.7	55	2007. 6. 18	網走	1.8	43	91	1.9
7	2007. 10. 24	雄武	8.0	15	2006. 12. 5	沙留	1.0	33	323	7.0
8	2007. 11. 8	紋別	-	-	2007. 10. 2	湧別	2.5	66	37	-
9	2007. 11. 9	紋別	-	-	2007. 6. 11	沙留	2.5	14	151	-
10	2007. 11. 28	沙留	3.0	24	2007. 9. 20	沙留	2.0	57	69	1.0